

会員各位

残暑もようやく薄らぎ、夕ぐれの涼風はさすがに秋を思わせます。2学期が始まり、何かと慌ただしい毎日をお過ごしのことと思いますが、十分な睡眠を取るなど、体調管理には十分気を付けましょう。また、食欲の秋、読書の秋、スポーツの秋など、いろいろな楽しみを見つけて過ごせたらいいですね。それでは、今回の佐事研だよりをお届けします。

◇共通テーマ

「佐賀県庁職員 円城寺雄介氏の紹介」
(第 39 回佐賀県公立小中学校学校事務研究大会 講演予定)

◇フリーテーマ

「佐賀市事務研プロジェクト研究ナレッジマネジメント班の活動」



今回の佐事研だよりは、10月28日(金)アバンセで開催される佐事研大会でご講演いただく、佐賀県庁職員の円城寺雄介さんの紹介です。全国から注目を集めている円城寺さんに、今村情報推進部長がインタビューをしました。

円城寺さんの仕事に対する考えや姿勢、業績等については、当日の講演でお話されると思いますので、今回は円城寺さんをキーワード形式でご紹介いたします。



円城寺雄介さん



円城寺雄介さんを知る6つのキーワード

-01.日本で初めて救急車の搬送時間短縮に成功-

■これまで実現不可能と考えられていた救急搬送時間の短縮ですが、救急車にiPadを配備し、受け入れ先の病院を瞬時に検索するシステムを開発・導入することで、搬送時間の短縮に成功されています。

私がすごいと感じたことは、今まで人が思いもつかなかったアイデアでも、前例にとらわれずに実行してみようという考え方と、救急現場で何が起きているのかを肌で感じるため、実際に救急車に同乗！？したという行動力です。

- 2001年 佐賀県庁入庁
- 現在 政策課勤務
- 全国知事会先進政策大賞をはじめ、様々な賞を受賞
- 2月に著書「県庁そろそろクビですか？」を出版
- 業務外活動も幅広く、ドローン活用法人の最高経営責任者(CEO)として活躍

-02.ドクターヘリの導入-



■皆さんの学校にもドクターヘリが着陸したことはないでしょうか？佐賀県では当初、ドクターヘリは予算上の制約もあり県独自での導入は見送られていたそうです。

しかし、救急車のiPad利用によるデータ分析で、救急の空白地帯を明らかにするという方法で財政当局や関係者を説得され、ドクターヘリの導入実現に導かれました。

ここでも、円城寺さんの既成概念にとらわれない発想力や、データ分析力・現場の声を実現したいという信念に基づく行動力に脱帽しました。

-03.徹底した「現場主義」-

■円城寺さんは言います。「現場を自分の目で見なければ、いい仕事はできない」と。この考えは、最初に配属された唐津土木事務所での用地買収の失敗から学んだそうです。

赴任してすぐのこと、地権者の方にスーツ姿で挨拶に行くと「スーツなんか着て現場も見ずに俺の土地を売れとか、オマエはなんば言いよっか！」と怒鳴りつけられたそうです。それからは、必ず現場で感覚をつかむことを最初に行っているそうです。

-04.法律や規則を学ぶことで、ルールを変えることができる-

■「自分の仕事がどんな法律や規則で成り立っているかを知ること、現状に合わないルールを変えることができる。また、変えることができなければ、限られた制約の中で何ができるのかを深く考えることができる。」円城寺さんはそう言います。

円城寺さんは、改革を続けていますが、行政官として、基本中の基本、条例や規則を軽視することは絶対にありません。これまでの人たちの仕事のやり方をしっかりと勉強し、尊重したうえで、現状に合わなければ変える。そうすることが前任者やこれまでの担当者に対する礼儀だと考えているそうです。

-05.学校事務職員とは実は縁があります-

■円城寺さんは、自治修習所に勤務していたとき、学校事務職員の新規採用者研修カリキュラムを改善されました。それまでは、知事部局職員が4期まで受講できるのに対し、学校事務職員は2期までしか受講できませんでした。また、内容も知事部局職員のを聴講するだけでしたが、教職員課、学校現場と協議することで、学校事務職員が、必要な研修を知事部局と同じように4期まで受講できるように調整してくださいました。感謝！！

-06.次なる挑戦そして、実現したい未来-

■円城寺さんは現在、総務省からの依頼で、各都道府県のICTアドバイザーとして、全国を回っておられます。そして、今年2月には自著『県庁そろそろクビですか?』を出版されました。ドローンの活用にも注目されており、ドローンの活用プロジェクトを一般社団法人化し、副理事長兼最高経営責任者（CEO）もされています。（報酬は0円！）

円城寺さんの描く未来は……

「人類の英知であるテクノロジー、例えばドローン、ロボット、自動運転などを活用し、社会の基盤にすることです。2020年以降オリンピックの反動で経済が崩壊するのではないかな？ 社会保障が破綻するのではないかな？ その局面に対して、少しずつでも未来へ希望の種を撒いていきたい。理不尽なルールの中でも自分はやれることがたくさんある、そこを行動に移していきたい。」と最後にメッセージをいただきました。



今回のインタビューを通しての感想

円城寺さんとの初めての出会いは新規採用者研修のときでした。それから、円城寺さんが主催されている自主研修会（アフターファイブ研修会）にも参加しています。

今回のインタビューを通して、円城寺さんの改革への「覚悟」を改めて感じました。著書『県庁そろそろクビですか?』もぜひみなさん読んでみてください。円城寺さんの「覚悟」が文章に現れています。（なんと、本の印税は全額寄付しているそうです。）

それでは円城寺さん、お忙しいなか、インタビューを受けてくださりありがとうございました。10月の講演を楽しみにしています！

インタビュアー：情報推進部長 今村真一郎

佐賀市事務研プロジェクト研究ナレッジマネジメント班の活動

佐賀市立小中一貫校三瀬校小学部 主事 江藤咲月

佐賀市小中学校事務研究協議会では、学校徴収金班とナレッジマネジメント班の2つのプロジェクト研究班で事務研究に取り組んでいます。今回は2つの研究班のうち、私が所属するナレッジマネジメント班の活動についてご紹介します。

ナレッジマネジメント班は、「個人の知識やプロセスを会員全体で共有することにより、個人の能力の育成や組織全体の生産性の向上、意思決定スピードの向上、業務の改善や革新の場の提供を目指すとともに、新任者や転入者の支援を行っていく」ことを目標に、新採1年目から事務主任までの10名で活動しています。今年度は、「情報提供」、「情報収集」、「ノートデータベース整理」、「校舎改築」、「新採者・転任者支援」の5つの項目について研究を進めていますが、今回はその中から「情報提供」と「校舎改築」について、研究の詳細をご紹介します。

-01.情報提供-

ナレッジマネジメント班では、お役立ち情報や施設・財務に関すること、新採・転入者に周知すべきことなどについて、全会員に向けて月に1~3回程度、メールで配信しています。昨年度は「ハチの対応について」、「予算編成事務」、「施設管理費の引き上げ」などの情報を配信しました。

「施設管理費の引き上げ」を例に挙げると、市教委からの連絡を受けて引き上げられるまでの期間が短いため、事前に引き上げ時期や、準備しておくべきことをお知らせしています。配信後のアンケートでは、「佐賀市外から転入し

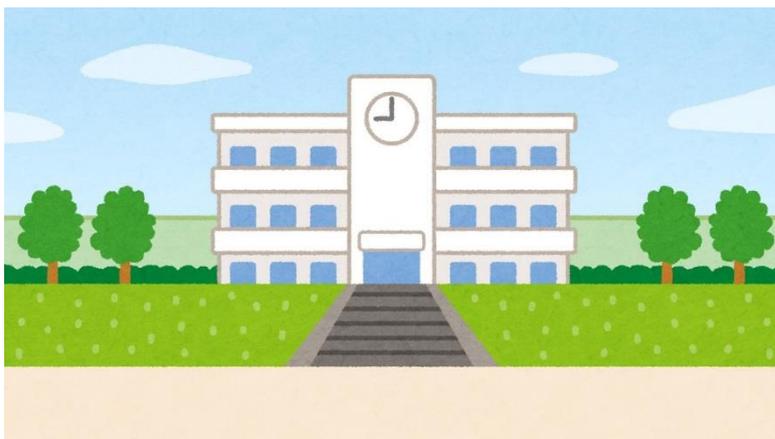
たので、とても役に立っている」、「不要な情報がある」、「これまでに配信された情報を一覧にまとめられないか」などの意見が寄せられました。そこで、今年度は、配信する内容を吟味してタイムリーに配信することとし、配信した情報をグループウェアのデータベース上できちんと整理していくこととしました。ナレッジマネジメント班では、会員の皆様からのこんな情報が欲しい！という要望を随時募集しています。



-02.校舎改築-

今年度佐賀市では、小中学校合わせて13校が校舎改築の1年目（設計）から3年目（本校舎完成）に該当しています。この数字は、佐賀市の全小中学校数53校のうち約25%にも相当します。そこでナレッジマネジメント班では、昨年度から校舎改築の研究に特化したチームを立ち上げ、校舎改築該当校に有意義な情報を提供することを目標に活動しています。

活動内容としては、まず、校舎改築該当校を対象とした研修会を年3回開催し、既に校舎改築を終えた学校による事例発表や、引越し、職員作業等についての情報交換を行っています。校舎改築事務については、事務の流れがマニュアル化されているわけではありませんので、こうした情報共有の場を設けることで、改築の際に注意すべき点を共通理解し、事務職員として教職員、業者、市教委、近隣住民などにどう対応していくべきかなど、見通しを持って仕事をする事ができると会員からも好評です。また、該当校の事務職員に校舎改築に関する日々の業務を「校舎改築日誌」というエクセルファイルに記録していただいています。それをデータベース内の校舎改築ページで全会員に公開し、情報共有できるようにしています。ほかにも、購入備品一覧や職員に配布したお知らせ文書などの情報についても、該当校から収集・公開しています。今年度は、これらの情報を引き続き収集し、誰もが欲しい情報をすぐに見ることができるようデータベース内の整理・改変を随時行っていく予定です。



以上がナレッジマネジメント班の活動の一部です。これからも、佐賀市事務研会員の皆様のお役に立てるよう、学校徴収金班とともに事務研究に取り組んでいきます。

◆ 編集後記 ◆

佐事研だより第99号はいかがでしたでしょうか。円城寺さん、江藤さん、お忙しいなか、インタビューや執筆にご協力いただき、ありがとうございます。「佐事研だより」に関してご意見・ご要望等ございましたら、今後のご参考にさせていただきますので、各地区の情報推進部員までお知らせください。

情報推進部